

D Oracle 10g データ ポンプ ユーティリティ

Oracle 10g データベースでは、Oracle がデータ ポンプ ユーティリティをサポートしています。ディスク上のデータをステージングしないでデータベース間でデータを転送するために、データ ポンプ ユーティリティを使用できます。これによって、エクスポート/インポート ユーティリティよりもパフォーマンスが大幅に向上します。

データを 2 個の NCM コアと 2 個の Oracle 10g データベース間で転送するには：


- 1 他の NCM コアへのデータベース情報が含まれるように、2 個の NCM コアにある 2 個のデータベースの *tnsnames.ora* ファイルを編集します。次のコマンドを実行します。

```
sqlplus SYSTEM/<SYS_PASSWORD>@<MASTER2_SID>

CREATE DIRECTORY <DIR_NAME> AS '<DIR_PATH>';
GRANT ALL ON DIRECTORY <DIR_NAME> TO PUBLIC;
CREATE DATABASE LINK <DBLINK> CONNECT TO <USER>
IDENTIFIED BY <PASSWORD> USING '<CONNECTSTRING>';
```

各記号の意味は次のとおりです。

- <DIR_NAME> および <DIR_PATH> はログのディレクトリです。
- <USER> は NCM がデータベースへの接続に使用するユーザです。
- <MASTER2_SID> は宛先 NCM コアの SID です。
- <SYS_PASSWORD> および <PASSWORD> は適切なパスワードです。

 接続ストリングは Oracle Net Manager で検索できます。

- 2 データをインポートする宛先データベースでデータ ポンプ ユーティリティを実行します。

```
$ IMPDP <USER>/<PASSWORD>@<MASTER2_SID> TABLES='<USER>.RN_%'
DIRECTORY=<DIR_NAME> NETWORK_LINK=<DBLINK>
```

 <DBLINK> はステップ 1 で CREATE DATABASE LINK を使用して作成した始点システムへのリモート データベース リンクの名前です。

ディレクトリ <DIR_NAME> のロギング情報をチェックして、データ ポンプ ユーティリティのエラーメッセージを確認してください。

- 3 設定を完了するには、「インストール、設定、およびアップグレード」(P.xiii) に戻ります。

